中海の漁業実態調査（刺網・ます網）

（汽水域有用水産資源調査）

古谷尚大

１．目的

中海の代表的な漁業であり、ほぼすべての魚種の周年的な出現動向を把握しやすいます網と、成魚を積極的に漁獲している刺網について魚種や漁獲量を詳細に把握し、中海の有用魚介類の有効活用を図るための基礎資料を収集する。

２．方法

(1) 標本船野帳調査

漁業実態および有用魚介類の動態を把握するために、刺網 1 地区（江島）、ます網 1 地区（本庄）で、漁業者各 1 名に操業日誌の記帳を依頼した。

(2) 漁獲物買取り調査

ます網 1 地区（本庄）において、月 1 回の頻度で全漁獲物の買い取りを行い、出現魚種や体長組成等を調査した。

３．結果

(1) 標本船調査

今年度の刺網の年間漁獲量は平年（過去 5 年平均、以下同様）よりも約 2.8 トン少ない 3.8 トンで、平年の 57.5%であった（添付資料「2023 年度「中海漁業実態調査結果」（以下同じ）表 1）。魚種組成は、スズキとボラの 2 魚種が漁獲の大半を占めており（82.7%）平年（90.9%）と同様であったが、クロダイの比率が増加傾向にあった（2023 年：15.6%、平年：7.4%）。

本庄地区のます網の年間漁獲量は 1.7 トンで、平年と比較して 0.6 トン少なかった（添付資料-表 2）。今年度の主要魚種の組成を平年と比較すると、モクズガニとアカエイが増加したが、他の魚種は減少した（添付資料表 2）。

(2) ます網漁獲物買い取り調査

本庄水域：買い取り調査を開始した 2008（平成 20）年以降、今年度までに確認された魚介類を取りまとめたところ、魚類が 14 目 46 科の 92 種、軟体類が 3 目 3 科の 5 種、甲殻類が 1 目 8 科の 18 種で、合計 18 目 57 科 115 種であった（添付資料表 3）。

今年度の出現種の組成を尾数割合（添付資料表 4）でみると、サッパが最も多く、次いでマアジ、カタクチイワシ、ヒイラギ、マハゼと続いた。